

# グローバル 眼の

11月上旬に1年半ぶり「1」の課題、すなわち前に上海を訪れた。ほぼ満席の飛行機を埋め尽くし「貿易実験区」、上海と周たビジネスマンが向かう先は恐らく、上海で行われた「中国国際輸入博覧会」（輸入博）と見受けられた。

輸入博は昨年に続き2回目、中国にとつては一大イベントとなつてい

る。開催地の上海は中央政府から示された「3+

今年度の輸入博は自動車や環境、ヘルスケア、テクノロジーなど七つのテーマで企業出展と、各国が出展する国家館で構成される。日本からは300超の企業・団体が出展し、2年連続で国・地域別では最大となった。現地のマスコミ報道をみて、日本企業の経営トップに対するインタビュや日本の製品・サービ

## 中国、輸入博で「開放」強調



## 外資規制緩和も促進

ス、日本館の様子などが印象は強い。

数多く取り上げられ、日 一方、中国館は建国70周年という重要な節目を本企業を持ち上げている

をもちた。昨年来、習近平国家主席は内外の場で経済開放を推進することを明らかにしてお

限撤廃など、金融分野に盛り込まれているが、徹底する外資参入に対する底的な実施が期待されて規制緩和が目立つ。実際、全面的な開放の枠組みづくりは2018年の経済政策の重要な柱となっていた。具体的には、今年に入ってから、3月の46位から大幅な上昇と、中国は31位で、昨年

で、とりわけ1978年に実施した「改革・開放」以降の成果を宣伝する様子だった。

に外国企業による中国への投資の新たな基本法である「外商（外資企業）投資法」ができ、来年1月1日から施行されることになつている。特に外資企業から高い関心が寄せられている知的財産権の保護を強化する規定が

言つまでもないが、同政策は中国の高度成長と経済社会の大きな変貌

人口約14億人の巨大なマーケットをどこまで開放するのかを、模索しながら進めていくと見られる。直近では外資銀行の業務範囲の拡大や証券会社への外資出資比率の上

中国が力を入れて入博覧会一は11月上旬に上海で開かれた



伊藤忠総研  
産業調査センター

趙瑋琳